

学校目標		重点目標							
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。		1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくり進路保障							
2 学力を保障し、人間的成長を保障し、進路を保障する高校を目指す。		今年度の重点目標							
		①いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校 ②あいさつと清掃が当たり前のできる学校 ③「授業は命」授業を大切に、伸びる力を伸ばす学校 ④地域に学び、地域と連携する開かれた学校							
[成果と課題( )] ・今年度より開始した授業中の教室内携帯電話持ち込み禁止指導が定着し始め、授業に集中する姿勢ができてきた一方、少数だが3回没収され反省指導を受ける生徒もいる。 ・11月以降遅刻指導を変更したこともあり、昨年度までと比べ遅刻者が減った。規律や授業に対する意識が変わり始めているが、授業態度については公開授業等でまだ厳しい意見もある。 ・懸案事項であった文化祭の位置や内容、および商業科販売実習(諏実タウン)を服飾科と一緒に行う案について、具体的に検討を進めた。		[改善策・向上策] ※左記に対する記述が、次年度の目標・課題となる。 ・携帯電話や授業のルールについては、引き続き全職員で統一した指導に努める。また生活態度や学習意欲が気になる生徒には、学年・生活指導係が協力して早めに対応する。 ・販売実習については文化祭の内容(一般公開の有無)にも係わるため、校友会役員を始め生徒の意見を聞いた上で、来年度中には決定できるよう努める。							
領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
教    育	I 生徒指導 ・生活指導係 1学年 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上	・挨拶、頭髪・身だしなみ、時間を守る等の指導の徹底 ・規律と秩序ある生活態度の育成 ・学習規律の確立と授業マナーの向上 ・交通安全、マナー等を遵守する指導と防犯意識の向上	・11月中旬より遅刻指導の方法を変更したことにより、遅刻者が減ってきた。また急いで教室に向かう姿も見られるようになってきた。 ・自転車ステッカー貼付の確認と、駐輪場の整備を行った。 ・朝の立門指導で制服の着こなし、ピアスを外す声掛けを行った。一部の生徒はルールを守れないまま生活している。	A	B	C	D	・制服の着こなし、ピアスをはずすなどの指導は、朝の声掛けだけでなく職員で意思統一して授業内でも行っていく。 ・暴言について今後も厳しく指導をしていく。
		2 健全育成	・問題行動等への適切な対応と予防指導および事後指導の充実 ・人権を守る土壌を育みいじめ等を許さない環境作りの推進 ・遅刻者指導と保護者との協力	・全校集会、SHR等で注意喚起を行い、予防指導を行った。必要に応じて事後指導の面談を行った。 ・学校生活アンケートを実施し(7月、11月)、面談を通していじめ等の早期発見に努めた。 ・11月より遅刻指導の方法を変更した。					・昼休みの立ち番見回りを通年で行う。 ・学校生活アンケート3回目を2月に実施する予定。
	・教育相談	3 相談と支援	・校内チーム支援の推進・協力 ・いじめや不登校への予防と対応 ・特別支援教育の充実 ・校外関係機関との連携	・校内チーム支援の一環として1学期に教科担当者会を開いた。 ・不登校傾向の生徒に関して、担任・学年・養護職員と連携し、本人保護者と面談を重ね、カウンセリングを実施した。 ・校外関係機関と連携し生徒対応をした。 ・10月職員研修会は大変参考になった。					・今年度同様、校内におけるチーム支援推進をはかりたい。校内の分掌と協力・連携し生徒の初期対応(相談と支援)を更に充実させたい。 ・更に本校の特別支援教育の支援体制について理解を深め、充実させていきたい。来年度は保護者向けの講演会を計画したい。
	・人権係	4 人権意識と仲間づくり	・人権意識に基づく学級経営 ・人権感覚の定着と向上	・人権啓発週間似合わせ、図書館に関連するコーナーを設けたり、教科学習のなかで、人権に関する授業を行った。 ・修学旅行や松代見学に向けた事前学習や3年生に向けた人権問題をテーマにした映画鑑賞を行い、図書館にも関連するコーナーを設けた。					・人権啓発週間や事前学習の期間に活動が限られてしまった。日常生活におけるネット上の言葉の暴力や暴言など、生徒が直面する人権問題にも、生活指導や学年指導と連携して取り組んでいきたい。
活	I 生徒指導 ・保健係	5 健康・安全教育	・健康・安全教育の充実 ・生徒及び職員の健康支援 ・環境衛生の促進	・健康安全教育については、保健日より各行事を通して個別に、又は全体に対して行った。 ・健康支援は、学年、係と連携して行った。 ・環境衛生については、保健委員の当番活動として、トイレ、水場の見回り、整美を実施した。 ・学校保健委員会で、歯科治療について生徒の意識調査の結果を発表し、学校医より助言をいただくことができた。					・様々な行事や、季節の変化を考慮し、健康管理について指導したり、配慮できるように、係、学年及びクラスの連携を更に深めたい。 ・生徒の保健意識を調査し、更に生徒の実情に合わせた支援ができるようにしていく。 ・学校保健委員会で学校医よりいただいた助言を、生徒に周知する方策を考えたい。
		6 校舎内外の美化の推進	・進んで清掃に取り組む意識の構築 ・校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ゴミ分別の徹底 ・整美委員の自発的取り組みへの支援	・各クラス、班の構成員により清掃への取り組みの差が大きい。監督指導が徹底されている分担当場所はしっかり掃除ができていたが、廊下掃除の分担を各クラスに変更したが、クラスにより差が出てしまった。					・清掃にこない生徒へは、監督者が繰り返し呼び掛けていくことが必要。 ・正副委員は自覚を持って活動している。各クラスの整美委員も自ら動くことが出来るようにしていきたい。
	・整美係	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・委員会活動の活性化 ・校友会行事・文化祭の質的向上	・科ノ葉祭に向けて執行役員が計画的に業務を遂行し、連絡調整的確な指示などリーダーとしての自覚とそれに伴った行動ができるようになった。					・2年生への引継も無事に終了し、新体制がスタートした。リーダーとしての自覚を持たせ、円滑な業務遂行のためにも早めの企画・準備を行い、反省の時間も十分確保していきたい。
	・校友会係	8 クラブ活動の充実	・加入促進と各部の活発な活動 ・クラブ活動による生徒指導の充実 ・各種大会、コンクール参加に対する支援	・クラブ説明会の時間を延ばす、文化祭の発表の場を文化祭でしっかり確保する等の対策を行った。					・クラブ加入促進については顧問や新学年と連携して早めに進めていきたい。
動	II 進路指導 ・進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 インターンシップによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 オープンキャンパスの活用	・1年生は8月にミニメッセを実施し、地元企業に触れ理解を深め、10月全員対象のインターンシップを実施した。誠実に取り組み、企業の評価も上々であった。 ・2年生は様々なガイダンス等を通して、進路意識を高めている。夏休みを中心にしてインターンシップに参加したが、心構えの不十分な生徒が若干見られ、企業に迷惑を掛けてしまったのが残念であった。					・インターンシップは生徒の中にやらされているという意識があり、自分のものとなっていない面があるので、事前指導を充実させる必要がある。 ・進路ガイダンスは積極的に行っているが、ややマンネリ気味である。回数ではなく、内容を吟味する時期かと思われる。
		2 進路保障	・個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 個人の希望に応じた進路選択(進路希望とその実現)	・ほぼ全員の生徒と個人面接を行って希望を確認した上で指導に入ることができてよかった。最初の応募で不採用になった生徒が多かったが、その後の指導でほぼ全員が内定をいただくことができた。					・生徒の希望を尊重することを優先しているが、やむを得ない面はあるが、応募先企業の決定に際しては様々な情報を有効に活用して最初の応募で内定がとれるように指導する方策を考えていく。

	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教育活動	Ⅲ 学習指導 ・ 教育課程・学習指導委員会 ・ 学習係  1学年 2学年 3学年	1 教育課程の見直しと改革、21世紀型学力の養成とSPH指定に対応した教育課程の編成	・ 科目指導法の研究と実践 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導	・ SPH指定を受け、各教科にアンケートを実施し、21世紀型学力の養成と併せてSPHに対応した教育課程の編成を実施した。	○				・ SPHパフォーマンス評価(ルーブリック)研修会を実施し、実施後にアクティブラーニングに向けた授業改善も進める。
		2 意欲・関心の喚起と観点別評価	・ シラバスの検証と授業改善 ・ 観点別評価の実践研究 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・ 授業充実のためのアンケートを7月末に実施し、授業の充実に向けた意見をすべての生徒から集めた。		○			・ 授業アンケートを受けて改善点を研究し、授業のさらなる充実を図っていく。
		3 基礎学力の定着	・ BabyStep(ドリル)の活用 ・ (集中力を高める)読書週間の充実 ・ 家庭学習の習慣づけ	・ 一般常識・国・数・英のBabyStepドリルを実施。一般常識の出題には読み取る力等の工夫を加えている。 ・ 図書委員会の協力があり、読書週間の充実が図れた。 ・ 各授業で課題提出が徹底できるよう努めた。			○		・ 今年度の取り組みを振り返り、次年度に向けた効果的な実施方法や課題を検討していく。
	Ⅳ 専門科 商業科	1 専門教育の改善・充実	・ 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・ 進路希望に即した学習構成と学習支援	＜商業科＞ ・ プリント教材や板書の工夫、ICTの活用等授業改善を行いながら、わかる授業を推進することに努めた。 ・ 一部の科目では企業や地域との連携を進め、生きた学びを取り入れることに努め、地域に対する興味関心を持たせることができた。 ＜服飾科＞ ・ 第8回学習成果発表会を1月28日(土)に実施した。専門科目「課題研究」を中軸とした3年間の授業成果を展示の部と発表の部の2部構成で1・2年生や校外に向けて一般公開した。 ・ 第3回NAGANOデザインフェスタ(2/18)に3年生が出演参加(1・2年生は見学)予定である。 ・ 授業に加えて、社会人講師、学科研修や行事等を通して学習内容の充実を図った。 ・ 校外コンクールに意欲的に取り組んだ。	○				＜商業科＞ ・ 科会や科目担当者会で昨年とは違う指導方法を比較、検討することで、授業に工夫を加え、生徒の興味・関心を高めさせる。 ・ シラバスを見直し、より計画的な授業となるよう努める。  ＜服飾科＞ ・ 発表会は継続的に実施し、更に発展できるように内容や予算措置の充実をはかる。 ・ 学習内容が確実に定着し、目標が達成できるように、個に応じた指導をしていく。
		2 資格取得の促進	・ 進路実現に向けた受験指導	＜商業科＞ ・ 各種検定の取得に向けて、補習週間等を設定しながら、懇切丁寧な指導を心がけた。 ・ 検定によっては出題範囲の移行期に対応しきれず、満足な結果が得られなかった。 ＜服飾科＞ ・ 補習や対策講座を設けて支援をし、全国家庭科技術検定、色彩検定、ビジネス文書実務検定、ファッション販売能力検定等の取得に意欲的に取り組んだ。		○			＜商業科＞ ・ きめ細かく、丁寧な指導を心がけることで興味を持たせ、高度な資格取得にも意欲的に取り組める生徒を増やしていきたい。 ・ 教員自身の研修も積極的にを行い、結果の出る指導を目指す。 ＜服飾科＞ ・ 検定取得につながるよう引き続き支援していく。
		3 地域との連携	・ 各種取り組みの継続と発展	＜商業科＞ ・ 12月3日・4日両日、販売実習とキッズビジネスタウンを融合した第4回目の「諏実タウン」を実施。売上高は伸びたが、集客数では昨年度より減少したため、次年度は広報にも力を入れたい。しかし、生徒達の実習の場としては、形が整ってきた点もあるので、次年度に活かしたい。 ＜服飾科＞ ・ 諏訪湖畔病院小ホールでのファッションショーを行い、地域の方と交流した。(7月) ・ 諏訪市ものづくり科の授業サポーター、城南小学校のキャリア教育活動に引き続き協力した。(9月)			○		＜商業科＞ ・ 地域との密接な連携をはかり、広報活動をきちんと行い、「諏実タウン」を地域の方々に案内し、本校の役割を十分理解していただく。  ＜服飾科＞ ・ 機会を捉えて積極的に企画していきたい。
	I 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・ 行事等関係部署と連絡をとっているが、担当者が変わった係の場合は、さらに細かい打ち合わせが必要。 ・ 毎年7月に行っている文化祭の位置や内容について、校友会係や進路指導係・各学年等と検討した。	○				・ 今後も早めに問題点を明らかにし、年度末までには次年度の見直しを持つようにしたい。 ・ 文化祭の時期や内容の見直しについては、校友会係と連携し生徒にも考えさせた上で、再来年度をめぐり各部署と協力し検討する。
			・ 業務の整理・改善と新規企画  (反省職員会の充実)	・ 昨年度より始めたオリジナルクリアファイルの作成は、時期を早めることにより、計169点の応募作品を得た。また生徒の投票に基づいて決定したため、より生徒が好むデザインを選ぶことができた。 ・ 1月18日実施予定。11月より各分掌および個人から意見を募る。			○		・ 来年度も今年度と同様な日程で早めに進め、デザイン選定には生徒の意見を取り入れたい。予算を捻出できれば、色を複数使用したりファイルの色を変える等の展開も検討する。 ・ 1月実施後に検討
			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応	・ 連絡システムの加入率は、昨年度の4割から6割に増加した。まだ、加入していない家庭もあるためさらに加入率アップをめざしたい。稼働率を上げたいと考えている。			○		・ 加入率をアップするとともに、緊急時は、スムーズな連絡が実施できるようにしたい。
2 職員研修の充実		・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設営と支援	・ 2学期初日に今年度もコンプライアンス委員会主催の職員研修会を行い、第2部は生徒指導等校内の課題について議論を深めた。			○		・ 今年度は討議の柱を絞ったためか、活発に意見が出され時間が足りなかった。来年度は校内の問題にもっと時間をかけられるよう、委員会に検討・調整をお願いする。	
3 広報活動の充実  (開かれた学校づくり)		・ 学校案内・学校要覧の発行	・ 学校案内については、H29年度入学生の教育課程変更のために例年より発行が遅れた。			○		・ 来年度はできれば5月に諏訪地区の中学校で行われる専門高校進学説明会に間に合うように進める。	
		・ HPの充実(更新)	・ 諏実通信ブログとして不定期ではあるが生徒の活動等を情報発信している。 ・ HPを改修して、クラブ・生徒会活動・進路情報などの外部発信情報の充実を図っている。			○		・ 生徒・保護者・地域に知ってもらうため認知度アップの広報活動を行い、アクセス数を上げたい。 ・ SPHの情報については、現在はリンクを貼ってあるため、すぐに見れるような形に変更したい。	
		・ 保護者等への情報発信	・ 連絡システムの利用方法を考えたい。緊急時の利用だけでなく、行事やその他の連絡なども活用できるように工夫したい。			○		・ 各担任に保護者面談などを通して、システムの加入の呼びかけの実施・利用規約など作成して、様々な面で活用できるように検討する。	

学校運営

対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策	
				A	B	C	D		
学校運営		・ 学校開放事業の周知と充実 (中学生体験入学)	・ 参加者は微増した。昨年度に続き、ほとんどの中学生が第1志望校として熱意を持って参加してくれた。学校説明・学習内容とも好評で、学校の特色や専門科の学習内容を理解する良い機会にしようことができた。	○				・ 昨年度同様校友会役員に、全体会での学校生活の説明や、クラブ見学への誘導を担当してもらった。在校生の姿を見て接することで本校の生徒の様子もわかってもらえるため、来年度以降も継続したい。	
		(授業公開)	・ 例年を大きく上回る85名の中学生に(昨年度56名)来校してもらうことができた。 ・ 曜日の関係で公開できる専門科目が限られ、特に服飾科の専門科目が1科目しか公開できなかった。	○				・ 来年度は来校者数が多くても対応できるよう受付を格技室にし、在校生と動線が重ならないようにする。 ・ 公開を6時限のみとし、専門科目を何種類も見てもらえるよう特編授業を組む。	
	II 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 6月・11月の会議で様々な視点からご意見をいただき、関係部署で今年度の事業に反映させている。		○			・ 2月の第3回会議では、SPHについて詳細な実施報告ができるよう準備する。
	III 地域連携	1 近隣へのボランティア  ※商業・  服飾以外	・ 通学路を中心としたゴミ拾い等、環境美化の推進	・ 各学年の校舎外清掃の際に校舎正門付近のゴミ拾いをした。 ・ 草取りについては指導の徹底が難しい。 ・ 文化祭やクラスマッチ後に整美委員によるゴミ拾いを行った。 ・ 朝の立門指導の際に駐輪場、正門付近のゴミ拾いを行っている。翌朝、駐輪場周辺のごみが目立つ。		○			・ 今後も立ち番指導を継続して行い、合わせて生徒にも環境美化の意識・関心を高めさせたい。 ・ 学校の敷地外のゴミ拾い等を行う回数を増やしたい。
	・ 交通安全の呼びかけ・電車の乗車マナーの呼びかけ		・ 全校集会等の機会を捉えて、交通安全について呼びかけを行っている。交通マナー、電車乗車マナーについての苦情は減ってきた。					・ 今後も交通安全、自転車の乗車マナー等について、定期的に呼びかけを行う。	
	2 高校大学等との連携		・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 以前は会計情報科で、夏期や年度末の休業を利用して大学での講義を受講する体験を行っていたが、ここ数年できていない。			○		・ 大学との連携は必要なので、近隣の大学関係者との話し合いの場を設ける必要がある。
	3 企業との連携		・ インターンシップ等の推進 ・ 採用担当者の講演会 ・ 内定生徒と採用担当者との面談	・ 今まで2年生の就職希望者を対象にしたインターンシップを実施してきたが、今年は1年生全員に義務づけた。初めての試みで大変であったが、成果はあった。	○				・ ミニメッセは2年続けて実施して成果が上がってきているので、参加企業を拡大して更に多くの企業を知る機会となるよう研究していきたい。
		4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等 ・ 面接試験に向けた生徒の状況把握	・ 11月に中学校22校を訪問し、入試に関する細かい変更点等を伝えた。また意見・要望を聞き、志願理由書書式変更等に反映させた。 ・ 11月の訪問では、SPHの報告資料も作成し説明した。 ・ 面接試験に関する訪問は、2月実施予定。		○			・ 来年度は進路指導係と相談の上、さらに詳細な就職・進学実績情報等、他校との違いを出せるようなアピール点を検討する。 ・ 2月の訪問では個々の受検生の状況について可能な限り詳細な情報を得て、入学後の対応にも生かす。

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反省職員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。